

令和4年度 青果物販売情勢について

令和4年9月8日（木）現在

【 果 樹 】

< モ モ >

9月に入り、売場は縮小となっているが、入荷量も減少していることから荷は動いている。

今後は、売場が無くなるようにお客を繋いでいく販売となり、保合相場の展開見通し。

「ゆうぞら」：特秀 15 玉 3,000 円～ 青秀 15 玉 2,500 円～

「幸 茜」：特秀 15 玉 3,000 円～ 青秀 15 玉 2,500 円～

< ナ シ >

メインの品種は「豊水」となり、千葉県産・茨城県産・栃木県産の入荷量が多い状況となっている。日によって寒暖の差があり荷動きの鈍さもあるが、末端売場は最大限まで拡大している状況。相場は保合展開の見通し。

「豊 水」：特秀 32 玉 3,500 円～ 秀 32 玉 3,000 円

【 野 菜 】

< きゅうり >

東北産露地作は、成り疲れと気温の低下により数量は減少となったが、月末も絡み末端の荷動きは活発ではなかったものの、不足感から相場はジリ上げとなった。

今後は、関東産早植えの抑制作が9/10前後に出揃いとなるため、全体量は増量となる。

連休を前に荷を滞留させないためにも相場をさらに下げる見通し。

@ A 2,000 円 ~ 1,800 円

< ミニトマト >

樹勢の低下、曇雨天により色回りのペースが鈍ったことで数量は微減傾向となっているが、引き合いも弱くなっていることから売りを止めないような慎重な販売で相場は弱保合となった。

今後は、末端の売価設定も上昇していることから荷動きは鈍化してきているが、東北産・関東近在抑制作の出荷が微減傾向となる見込みから、相場は高値維持の保合の見通し。

@ AM 200 円 ~ 180 円

< さやいんげん >

福島県産の早場産地の抑制作が増量となり、高値相場で縮小した量販店での売場を再度広げるために相場を弱める販売となった。

今後は、出荷ピークに向けてさらに増量する見込みから、荷動きを促すために相場は弱含みとなる見通し。

@ A 2,400 円 ~ 2,000 円